

第34回日韓技術士会議報告

労働安全コンサルタント 本田 尚士



日韓技術士会議の沿革

昭和46年10月12日日本技術士会の有志が韓国のソウルを友好訪問し、両国実務代表者による覚え書きが交わされ、爾後毎年交互に親善訪問を継続することが合意された。当初の数年は、専ら親善友好を目的として東京・ソウルで交互開催を繰り返していたが、第9回会議から場所を首都に限定することなく、両国技術士の共通のテーマによるシンポジウム形式の討議と分科会における討論により、逐次科学技術の国際会議の形式を整えて現在に至っている。韓国技術士会には安全部門が存

在しているので、今回は広報委員会のご了承を頂き本大会の概要を報告する。



第34回日韓技術士会議の概要

昨年の第34回大会は鳥取県米子市に於いて10月25日から27日まで、日本側約203名、韓国側112名と両国併せて同伴婦人を含め約300名余の参加者による会議が開催された。

大会テーマ：「地球環境保全そしてリスクマネジメント」

10月26日、両国会長・委員長挨拶があり、来賓



の鳥取県知事、米子市長の歓迎の挨拶の後、両国の1名ずつの基調講演が午前中に行われた。

日本側基調講演：本田尚士「アジア環境の創成」
(写真1)

韓国側基調講演：李 康建「地球環境問題の開発と保全の葛藤」

午後は次の6分科会に分かれて、活発な討論が行われた。

第1分科会：環境と観光

第2分科会：建設と防災

第3分科会：技術と倫理 CPD

第4分科会：資源と新エネルギー

第5分科会：技術者の国際交流（英語討論）

日韓 PL 資料交換会：

夕刻にはパーティーが開催され、出雲の地元の小学生による八岐大蛇のショウが行われて、子供たちの熱演に喝采がしきりであった。最後に明年の全州開催の35回大会での再会を約して散会した。

特に本会と関係深い第2分科会の両国の討論の題目を紹介する。

第2分科会：建設と防災

座長：中原幸政



写真1 基調講演中の筆者

〈日本側報告〉

中原幸政：原子力発電所の建設方法

宮原 宏：建築物の減災

山下祐一：地震による落石の実態と対策

橋本義平：Computer 社会における説明責任

〈韓国側報告〉

朴 慶夫：韓国の最近の災難及び防災政策の方向

金 慶鎮：建設安全管理の特性及び歴史的考察

金 斗煥：PL 予防の為の安全管理対応

以上の他に見学を兼ねたエクスカーションコースや婦人のためのレディスコースが用意されていた。

